



豊橋市を中心とする名所交通鳥瞰図



豊橋市とその附近

豊橋市を中心とする名所交通鳥瞰図

文・藤本一美

text by Kazumi FUJIMOTO

豊橋市内に本社を置く豊橋鉄道は、大正十三年に「豊橋電気軌道」として創立し、翌大正十四年七月十四日に、駅前（吉田）―神明―杣木間および神明―柳生橋間が開業（後半の路線は本図に載るが後に廃止）。現在は駅前から東部の運動公園前、赤岩口を結ぶ路面電車として、通勤や通学、買い物などに向かう市民の足になり、「市電」の愛称で親しまれている。

特に市役所前付近は、車の行きかう国道一号線の真ん中を悠然と走行するのは、唯一で珍しい。これが市内線（本線）である。

一方、昭和二十九年十月に名古屋鉄道から新豊橋―三河田原間（渥美線）を譲り受け、大きく進展を遂げる。

田原藩として栄えた田原市が中核となり、田原城跡や幕末に活躍した文人画家・洋学者であり家老の渡辺崋山に関する史跡（宅跡）が残され

藤本一美

首都大学東京・専修大学非常勤講師。地図情報センター理事。日本地図学会会員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。著書に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』（私家版2006年）、最新刊に『展望の山50選 関東編』（東京新聞出版局）がある。



地域とともに歩む、 豊橋のシンボル「路面電車」 と鉄道の「渥美線」。



豊橋鉄道株式会社

Toyohashi Rail Road Co., Ltd.

設立：大正 13 年 3 月 17 日

本社：豊橋市駅前大通 1 丁目 46 番地 1

豊橋駅から延びる二つの路線を持つ豊橋鉄道。「市電」の愛称で市民に愛される東田本線（市内線）は、駅前～赤岩口間 4.8km と井原～運動公園間 0.6km、計 5.4km（停留場数 14）の路線で、平成 20 年には狭軌用として初の純国産全面低床車両「ほつらむ」を導入した。東海地方に残る唯一の「路面電車」として、まちづくりや観光面でも豊橋市のシンボルとなっており、中でも車内でおでんを楽しめる冬季限定の「おでんしゃ」や夏季限定の「納涼ビール電車」など企画電車は、県内外から多くの観光客を集めている。

また、田原市へ延びる鉄道の渥美線では、平成 25 年より渥美半島の花々をデザインした「渥美線カラフルトレイン」を運行。「渥美半島菜の花まつり」や「渥美半島菊花大会」など地域のイベントをバックアップ、盛り上げている。



『豊橋市とその附近
〔豊橋市を中心とする名所交通鳥瞰図〕
(昭和 5 (1930) 年 4 月発行)
豊橋商工協会 発行
東京市麻布区筈町 81 大江印刷 (株) 印刷



ている。「鷹見泉石像」（国宝）「四季山水画冊」「千山万水図稿」「四州真景図巻」「毛武遊記」などで著名だ。さて、話を戻して、バックグラウンドの赤羽根の花弁園芸地帯へと続き、先端の伊良湖岬の旅情が誘う。特異な大胆な構図はどうだろうか。太平洋側沿岸寄り、豊橋上空から俯瞰し、中央部を豊橋市街地が図全体の三分の二を占める。鳥瞰図なのに平面地図として役割を果たしうである。豊川のほとりには吉田城跡（一五〇五年築城）と堀割を立体図化し、明治天皇行在所聖蹟地や吉田神社境内を示す。

軍事の要衝だけに、連隊司令部や練兵場、工兵大隊舎、騎兵連隊舎などの施設も多い。ぐるりを取り囲むのは、豊川稲荷や本宮山、鳳来寺山、石巻山、岩屋観音の姿だ。

図隔の左端には、渥美湾と伊勢湾を配置し、画室のあった日本ラインや遠く朝鮮半島の釜山を、右端には浜名湖の遥か遠くには、象徴としての富士山を入れている。

なお、本図の他には初三郎作品には、昭和二十五年秋作画「とよはし」（豊橋市鳥瞰図、豊橋市役所発行。京都の観光社作製）がある。ほぼ構図は同じだが、戦前・戦後の比較や交通路網を知るよすがとなる。